

資金の取り扱い

07/12/03 四日市大学総合政策学部 教授 松井真理子
(NPO法人市民社会研究所 代表)

1 基準

NPOは、その仕事を維持するために、システムティックに資金獲得(入札等に参加、助成金への応募、適切な資金提供者へのアプローチ、物品やサービスの顧客への販売など)を行わなければならない。また獲得した資金を効果的かつ慎重に管理する必要がある。支出は法に適合するとともに、無駄がないよう、毎月の支出管理によるコントロールが求められる。

2 達成レベル

レベル1:基本的な資金運用プロセスをもっていること。資金獲得及び経理は法に適合しており、支出は合意された目的に沿っていること。

- ・ 消費税、チャリティ団体経理及び報告規則等の遵守。
- ・ 富くじや路上募金などの資金集めイベントについて、法的な基準を守ること。
- ・ 銀行預金、小切手のサイン、小口現金、賃金の支出等について、内部的なプロセスを確立していること。
- ・ 支出記録の作成等、資金提供者の特定の要求に応じること。
- ・ 合意された収入・支出予算があること。また定期的にチェックを行い、適切な対処をとること。
- ・ 財務状況をチェックする理事会が、少なくとも四半期ごとに開催されること。

レベル2:組織の目的に沿った収入・支出について、計画的なアプローチが行われること。より詳細なチェックが理事会によって行われること。

- ・ 資金見通しが組織の戦略的・ビジネス計画の一部となっていること。
- ・ 予算作成過程について、文書化された手続があること。
- ・ 資金獲得について、優先順位やターゲットが年度開始に先立って合意されていること。
- ・ すべての財務システムはコントロールされ、指名された人々によって定期的にチェックされる
- ・ 物品購入、仕入れなどは文書による手続があり、簿記は財務コントロールとは切り離される。
- ・ 収入は、多様な財源から調達すること。
- ・ 現金保有は計画的に行われること。

レベル3：財務状況を実際に予測し、資金調達、投資、戦略的財務計画を実際に評価している。

- ・ 3年間の財務計画がある。それには(予期せぬ事態のための)代替計画や資金調達・投資の戦略を含む。
- ・ 主たる収入を生み出す活動のための、具体的なビジネスプランがあり、そこには競争者の分析、キャッシュフローの予測、投資の回収の分析を含む。
- ・ 既存の資金提供者と良好な関係を構築していること。
- ・ リスクアセスメントを含む内部監査プログラムを持っていること。
- ・ 監査役、銀行、投資サービスの質を3年ごとにチェックすること。
- ・ 財務手続やプロセスを毎年チェックすること。

3 ポイント

(1) 資金マネジメントのシステム化

(2) NPOの資金問題についての理解

NPO相互間の意見交換

行政との意見交換

(3) 市場化テストの導入等による今後のNPOの資金問題の行方

次回(1月5日)は「ネットワークとパートナーシップ」(予定)